

## タンジュン・パウ村のゴム園の現状

2011年6月19日

弁護士 奥村 秀二

## 第1 はじめに

タンジュン・パウ村のゴム園の状況については、2004年1月に調査を行った。その結果は、甲C1号証として提出済である。

上記調査の時は、ちょうどタンジュン・パウ村においてアクションプランによるゴム苗木の植付が始められたところで、約150世帯分のゴム園の植付がおわったとのことであった。そして、その植付状況を実際に確認し写真撮影を行った。それから7年が経過し、当時植付けたばかりであったゴムの生育状況や、ゴムの生産状況を確認するために、再度、タンジュン・パウ村のゴム園を調査した。

## 第2 調査の概要

今回行った調査の概要は以下の通りである。

- 1 2004年1月時の調査で、ゴム園の植付状況を確認したヌルシア氏のゴム園の状況や実際のゴムの生産状況を確認するため、2011年1月1日、同氏の関係者からの聞取と、同氏のゴム園の現地確認を行った。
- 2 同村については、ゴム植樹の遅れから、再定住者の内のかなりの人数の者がゴム農園を売却してしまっていることが以前から判明していた（甲C28, 315頁）。この点については、2011年1月時点での売却状況をタンジュン・パウ村から証明を受けているが（甲C52）、それによるとタンジュン・パウ村で把握している売却者は81世帯に及ぶ。

そこで、同月1日、既に売却してしまった再定住者から、売却した経緯と現在の生活状況を聴取した。

## 第3 ヌルシア氏のゴム園の状況

## 1 ゴム園の現状

2011年1月1日現在の、同氏のゴム園の状況は下記写真1から3の通りである。

2004年1月時とは違い、ゴムや周辺の木々の生育が進んでおり、見通しがききにくい状況となっているが、甲C1号証別紙2の写真4, 5に撮影されている焼け焦げた大木が現在もそのまま残っており、上記写真と同じ場所の写真であることがわかり、位置関係を比較できる。撮影場所・方向は別紙図面の通りである。



写真1の中央に写っている焼け焦げた大木が、甲C1号証別紙2の写真4, 5のそれである。

【写真1】

写真2はヌルシア氏のゴム園の南の端の位置から南西側に接している道路と南東側境界線とを見通すように撮影したものである。この写真の中央に上記の焼けた大木が写っている。



写真3は、ヌルシア氏ゴム園の西端から上記道路と北西側境界線とを見通すように撮影したものである。

↓【写真2】    ↓↓【写真3】



写真4、5はヌルシア氏のゴム園の南西側のゴム園の様子を撮影したものである。このゴム園は既に第3者に売却されており（甲C52別表10番）、ゴム園を購入した人物がゴムのタッピングをしていた（写真6, 7）。

↓【写真4】





↓【写真5】

【写真6】→



【写真7】→

## 2 聞取の結果：ゴム園からの生産状況等について

(1) ヌルシア氏のゴム園の具体的な状況を、聞くために、同氏宅に赴いたところ、ヌルシア氏自身は1週間ほどプカンバルの身内のところに行っているとのことで留守であったが、同氏の妹であるサウィナル (SAWINAR) 氏が在宅していた。

サウィナル氏は、ムルシア氏がこの再定住村に移転してきた頃から同居しており、現在は、サウィナル氏の娘夫婦が同居しており、娘婿であるアルディ (ARDI) 氏がゴム園の世話をしているとのことであった。そこで、アルディ氏にゴム園の状況を聞いたところ、以下の内容であった。

### (2) アルディ氏の説明

ヌルシア氏のゴム園でゴムが生産できるようになったのは、2009年頃からで、この1年くらいのことである。しかし、植えられたすべてのゴムの木からとれるようになっているのではなく、育ちのいい木だけからで、全体の4分の1くらいしか生産できていない。

とれるゴムの量は時期によって違うが、今の時期では1日12kgくらいである。但し雨の日は作業ができないので、作業ができた日だけの生産量である。今は雨期であるが乾期であればもう少し採取できる。

現在は、ゴムの値段が大変良いので、このゴムの生産量でも生活は何とかやっけており、ヌルシア氏やサウィナル氏を含めた家族6人がこれで生活している。



このゴム園でゴムがとれるようになる前（2008 年以前）は、昔の村のゴム園で沈んでいないところにあったゴム園の小作人として働いたり、採石をしたり、魚をとったりして生計を立てていた。

#### 第4 ゴム園を売却した再定住者の状況

2011 年 1 月時点で既にゴム園を売却してしまっていた再定住者の中で、同月 1 日に連絡を取ることができた 2 名（マワルディ（MAWARDI：原告番号 B129）氏：甲 C52 別表 42 番、及びロスミアティ（ROSMIATI）氏〔ダフレール（DAHLER）氏の妻〕：甲 C52 別表 19 番）から、ゴム園を売却した経緯等を聴取した。その内容は以下の通りである。

##### 1 マワルディ氏

(1) ゴム園を売ったのは 6 年前の 2004 年である。そのときはちょうどアクションプランがタンジュンパウで始まり、ゴムの植付が始められていた。但し、私のゴム園ではまだゴムの植付まで始まっておらず、作業員がきて藪を取除き、焼入れを始める段階だった。

アクションプランが動き始め、今後ゴム園が成立するかも知れないという状況ではあったが、ちゃんとした仕事がなく経済的に苦しかったため、やむを得なかった。売却代金は 450 万 Rp だった。当時、学校に通っている子供が 2 人いて、その教育費や日々の生活費に使った。

ゴム園を売った当時も今もゴム園の小作をしている。2004 年時と同じで苦しい生活が続いている。ただ、最近はゴムの値段が上がっているが食べていくことができる状況になっている。小作の場合は、ゴムの売却代金の 3 分の 1 が所有者で、3 分の 2 が私の手元に残る。

お金があれば土地を買って自分のゴム園をやりたいが、お金がないし、お金を貯められる見通しもないので、到底、自分のゴム園を持つことはできない。

(2) 同氏が売却したゴム園の様子

【写真 8】





同氏が売却したゴム園に案内を受け、写真撮影をした。撮影をしたおおよその位置・方向は別紙図面に記載したとおりである。写真8の右端に写っている人物がマワルディ氏である。

## 2 ロスマアティ氏

(1) ゴム園を売ったのは10年前の2000年である。

このとき、ゴム園はまだ藪の状況だった。ゴム園として与えられた土地は、何にも使っていない状態だった。

当時、生計は、ゴム園の小作をしてその収入でやりくりをしていた。ところが、夫（ダフレール）が病気になり治療費が必要となった。その上、一緒に働いて生計を支えてくれていた子どもも事故で怪我をしてしまい、私は子どもを出産したばかりで働くことができなかった。そこで、やむを得ずゴム園を売った。ゴム園の売却代金は600万Rpだったが、そのお金で、夫はパヤクンプの病院に入院した。また子どももこのお金で治療を受けた。

売却代金は、4ヶ月ほどでなくなってしまい、その後は、私がゴム園の小作をして生活をしてきた。夫は体調が回復しないまま2008年に亡くなった。

お金があればゴム園を買い戻して自分でゴム園をやりたいが、無理である。

(2) 同氏が売却したゴム園の様子

【写真9】

同氏が売却したゴム園に案内を受け写真撮影をした。撮影をしたおおよその位置・方向は別紙図面に記載したとおりである。写真9の中心に写っている人物がロスマアティ氏である。



【写真10】



以上



